

# 郡山市及びこおりやま広域圏における 気候変動適応に係る取組み



## 郡山市の概要

- 市域面積：757.20 km<sup>2</sup>
- 人口：321,329人（2024.1.1現在）
- 経済県都
  - 農業 米の収穫量（2022年度）  
38,700 t（全国18位、県内1位）
  - 商業 年間商品販売額（2020年度）  
1兆4,013億円（県内1位、東北2位）
  - 工業 製造品出荷額（2020年度）  
6,467億円（県内2位、東北3位）



猪苗代湖



## 郡山市の地理条件など

- 福島県の中央に位置する
- 高速交通の結節点
- 風況に恵まれた西部地域
- 研究機関が多く存在
- 猪苗代湖水を導く安積疏水※

※ 2016年度日本遺産認定【郡山市・猪苗代町】  
『未来を拓いた「一本の水路」  
-大久保利通「最期の夢」と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代-』

### 時間軸で見る郡山のロケーション

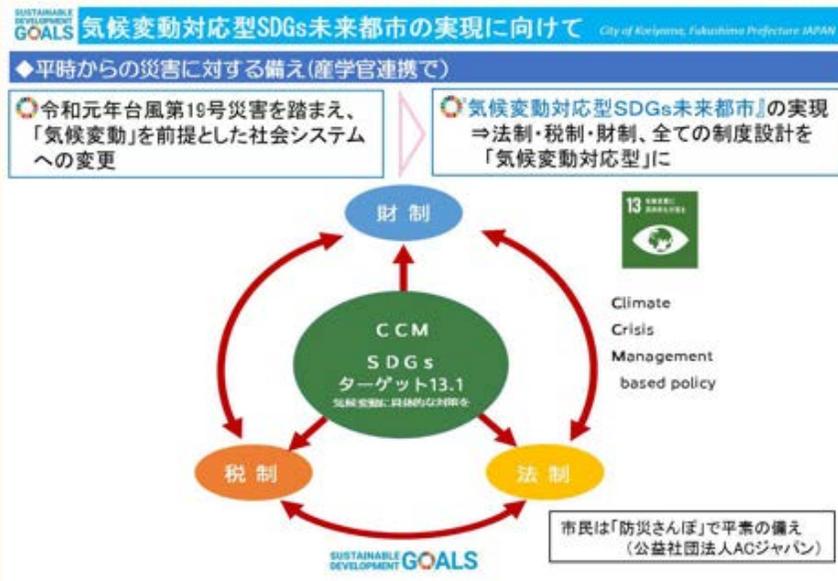


## SDGs未来都市（2019年7月選定）

- SDGs未来都市として「**気候変動への対応**」を含め、「**持続可能な地域社会の形成**」を目指している



2019年7月1日  
「SDGs未来都市」選定証授与式



出典：地方創生SDGs国際フォーラム2020（2020年1月10日）  
「郡山市発表資料」より抜粋（パネリストとして品川市長が登壇）

## 2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明

- 2019年11月「2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ」宣言

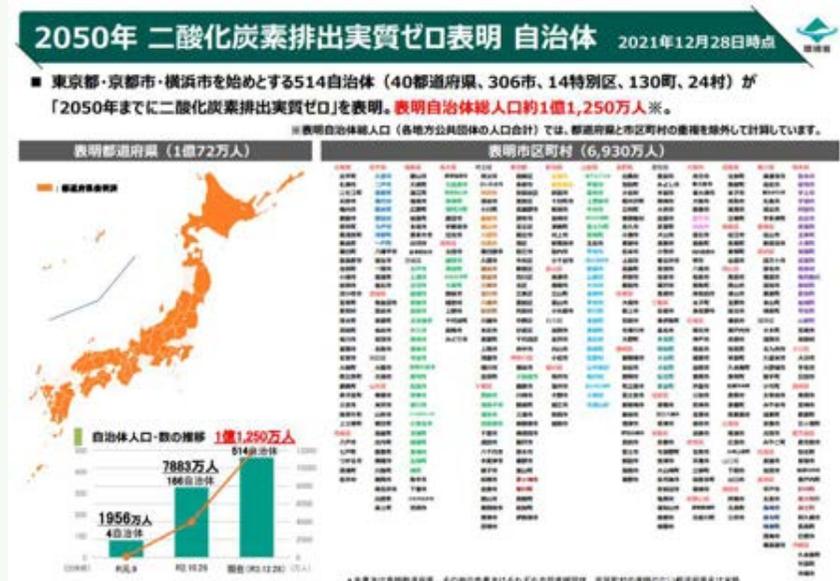


**目的**

- 脱炭素社会の実現
- SDGs未来都市としての取組みを加速化させる



2019年11月28日 記者会見



出典：環境省「地方公共団体における2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明の状況」

旧計画（～2021年3月）

郡山市地球温暖化対策実行計画「区域施策編」  
（地球温暖化対策推進法・区域施策編）  
【2011年4月策定】

第五次環境にやさしい郡山市率先行動計画  
（地球温暖化対策推進法・事務事業編）  
【2018年3月策定】

郡山市エネルギービジョン  
（郡山市独自のエネルギー計画）  
【2015年3月策定】

地域気候変動適応計画  
（気候変動適応法）  
【未策定】

集約  
（改定）

策定

現行計画

2021年3月策定、2023年3月改定

## 郡山市気候変動対策総合戦略

本市の目指す将来像及び実現を支える柱のイメージ



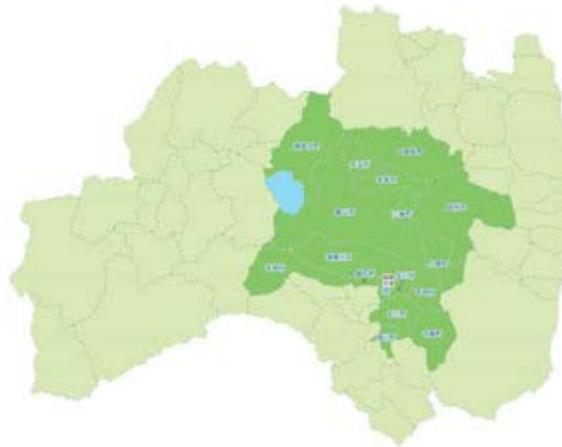
# こおりやま連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の概要

- 構成：17市町村（5市8町4村） ※中枢都市：郡山市
- 人口：約65万人（福島県の約3分の1）
- 面積：約3,313km<sup>2</sup>（福島県の約4分の1）

国（総務省）が設置する「連携中枢都市圏構想推進要綱」に基づき「こおりやま広域連携中枢都市圏（通称：こおりやま広域圏）」を形成する17市町村

## 【構成市町村】

郡山市、須賀川市、二本松市、  
田村市、本宮市、大玉村、  
鏡石町、天栄村、猪苗代町、  
石川町、玉川村、平田村、  
浅川町、古殿町、三春町、  
小野町、磐梯町



## 連携中枢都市圏の形成

郡山市が  
連携中枢都市  
宣言  
(2018年9月4日)

郡山市と14市町村が  
連携協約を締結  
(2019年1月23日)

郡山市が  
連携中枢都市圏  
ビジョンを策定  
(2019年3月19日)

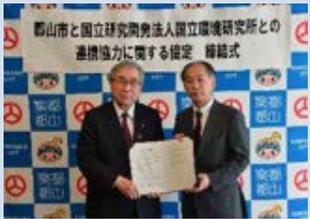
郡山市と二本松市が  
連携協約を締結  
(2019年10月18日)

郡山市と磐梯町が  
連携協約を締結  
(2022年2月7日)

- 2018年度：取組みに向けた準備
- 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積
  - 郡山市 … 「地域気候変動適応計画」素案（イメージ）の検討
  - 広域圏 … 「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」の開催
- 2020年度：計画・指針の策定
  - 郡山市 … 「気候変動適応ワーキンググループ（庁内組織）」による「地域気候変動適応計画」策定に向けた検討
  - 広域圏 … 「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」による「広域圏における指針（仮）」策定に向けた検討

- 2018年度：取組みに向けた準備
- 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積
  - 郡山市 …「地域気候変動適応計画」素案（イメージ）の検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」の開催
- 2020年度：計画・指針の策定
  - 郡山市 …「気候変動適応ワーキンググループ（庁内組織）」による「地域気候変動適応計画」策定に向けた検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」による「広域圏における指針（仮）」策定に向けた検討

# 2018年度：取組みに向けた準備（背景・経緯）

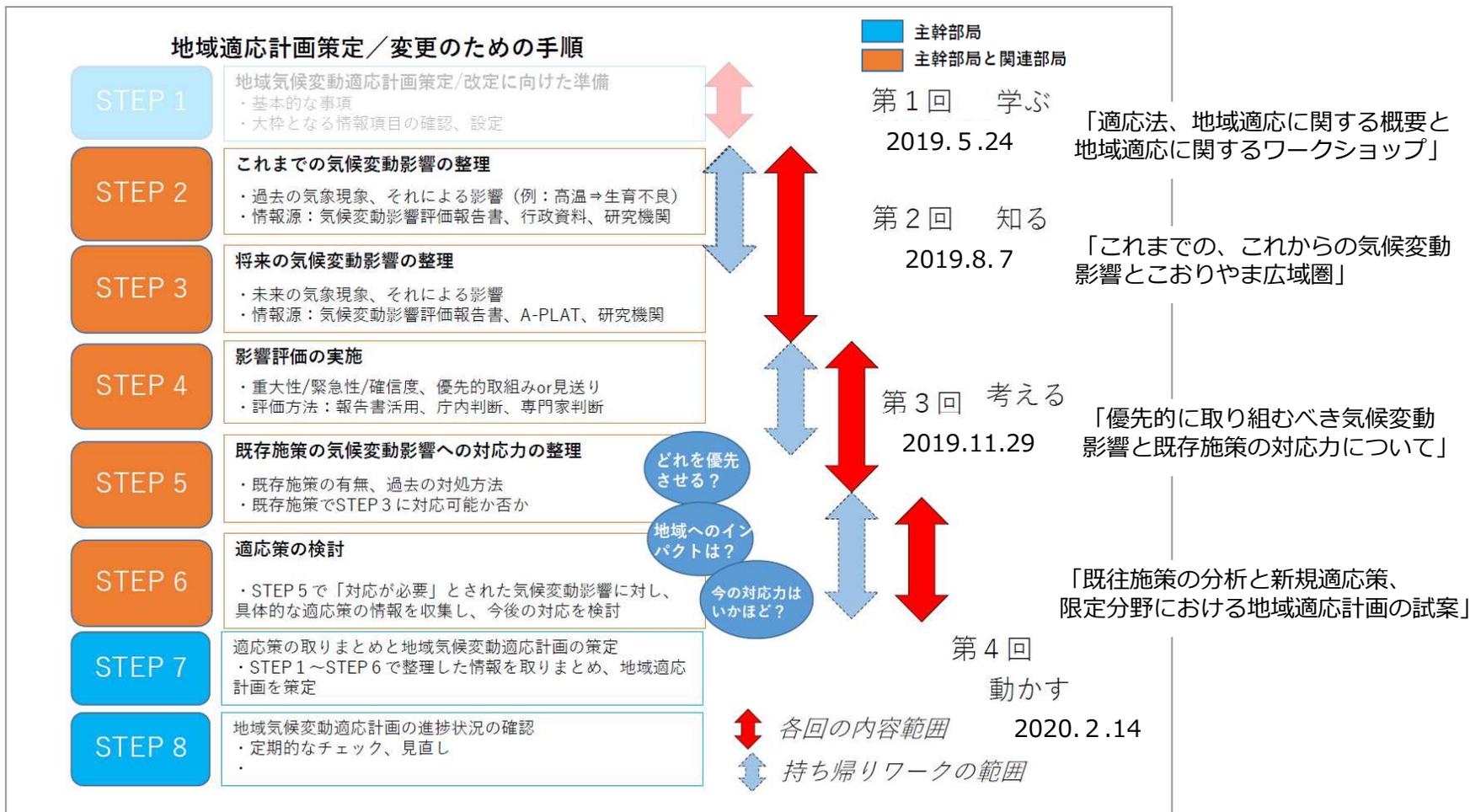
年月	内容（背景・経緯）	
2018年6月	「気候変動適応法」公布	
8月	<u>国立環境研究所（福島支部）に、気候変動適応に係る取組みの支援を依頼</u> ⇒ 「郡山市」及び「こおりやま広域圏」を対象に支援していただけることに	
11月	「第1回 気候変動適応に関するセミナー」開催 ○ 講師：行木 美弥 氏（国立環境研究所） 渡邊 明 氏（福島大学） ○ 参加者：96名（郡山市及び広域圏自治体職員 等）	
12月	「気候変動適応法」施行	
2019年2月	<u>郡山市と国立環境研究所との連携協定の締結</u> ⇒ 持続可能な地域づくりの推進に関する調査・研究や 気候変動に適応した都市・広域圏の調査・研究等を推進	
同月	「第2回 気候変動適応に関するセミナー（農業編）」開催 ○ 講師：豊村 紳一郎 氏 / 岡田 将誌 氏（国立環境研究所） ○ 参加者：86名（郡山市農業委員、郡山市及び広域圏自治体職員 等）	

- 2018年度：取組みに向けた準備
- 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積
  - 郡山市 …「地域気候変動適応計画」素案（イメージ）の検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」の開催
- 2020年度：計画・指針の策定
  - 郡山市 …「気候変動適応ワーキンググループ（庁内組織）」による「地域気候変動適応計画」策定に向けた検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」による「広域圏における指針（仮）」策定に向けた検討

# 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積

○ 広域圏 … 「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」の開催

⇒ 環境省『地域気候変動適応計画策定マニュアル』の手順に沿って、ワークショップ等を実施



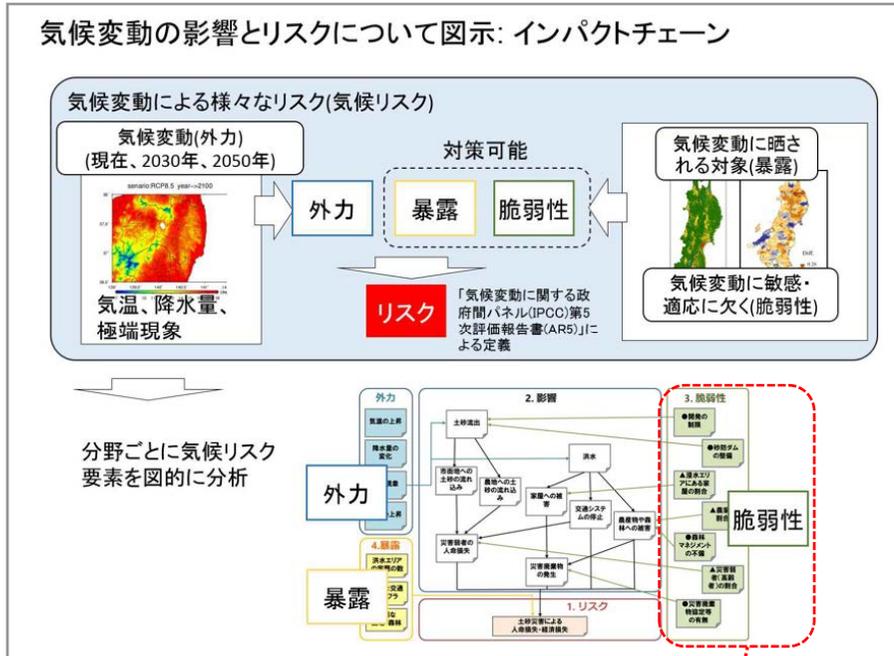
出典：国立環境研究所 福島支部 地域環境創生研究室

「こおりやま広域圏気候変動等推進研究会 セミナー・ワークショップ説明資料」

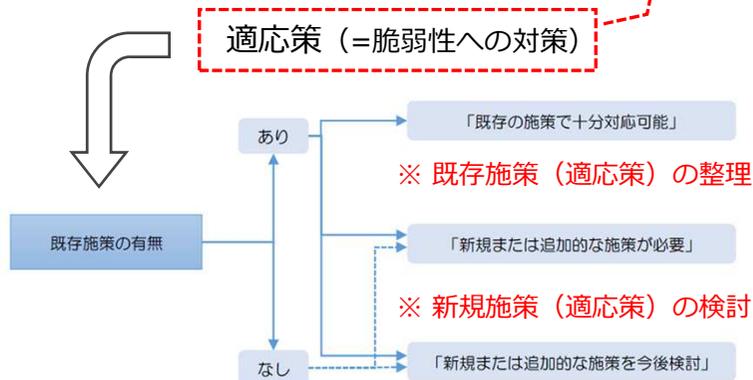
# 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積

## ◆ 実施内容の紹介：第3～4回「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」

⇒ 限定分野（「健康」等）における「インパクトチェーンの確認」と「地域適応計画の試案」



出典：国立環境研究所 福島支部 地域環境創生研究室「研究会 説明資料」

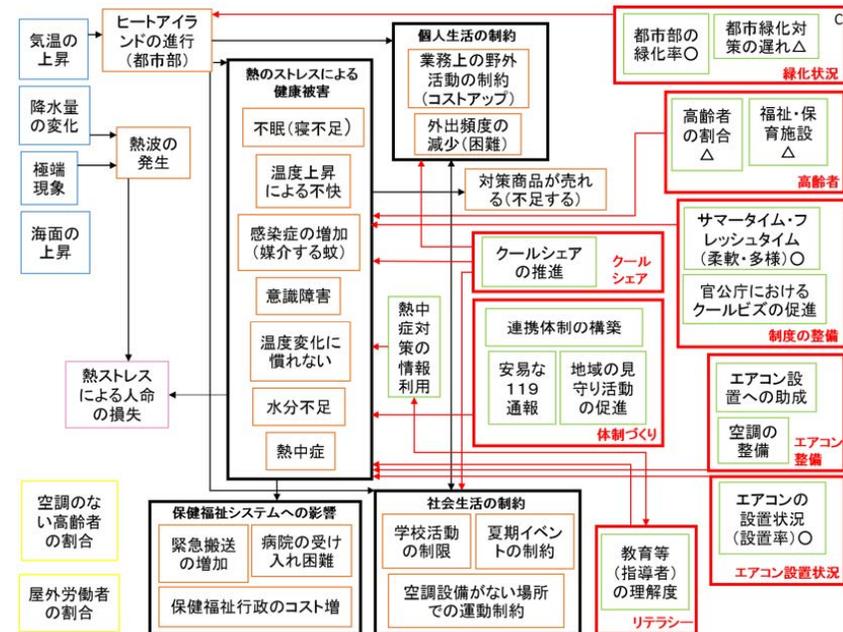


出典：環境省「地域気候変動適応計画策定マニュアル -手順編-



環境分野の職員等を対象としたワークショップの実施

## 「健康分野」におけるインパクトチェーン（「研究会」成果物）



限定分野（水環境・自然生態系・健康）について、こおりやま広域圏における「適応策」を整理

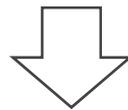
2019年度「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」を通じて…

➤ 成果

- 「ワークショップ」の実施により、「適応」に関する理解が深まった。  
(※ 「座学」だけの研修等では足りない部分もある)

➤ 課題

- 環境分野の職員だけでは、各分野における施策の実態を把握することが難しい
- こおりやま広域圏の各市町村の実情・要望に沿った内容にできたか？



2020年度、郡山市（庁内）の関連部署を巻き込み、計画策定に向けた検討を行う。  
また、郡山市（庁内）での取組内容と成果については、広域圏（研究会）で共有し、「広域圏における指針」を策定（検討）することとした。

- 2018年度：取組みに向けた準備
- 2019年度：気候変動適応に関するノウハウの蓄積
  - 郡山市 …「地域気候変動適応計画」素案（イメージ）の検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」の開催
- 2020年度：計画・指針の策定
  - 郡山市 …「気候変動適応ワーキンググループ（庁内組織）」による「地域気候変動適応計画」策定に向けた検討
  - 広域圏 …「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」による「広域圏における指針」策定に向けた検討

## 2020年度：計画・指針の策定（郡山市）

- 郡山市 … 「気候変動適応ワーキンググループ」による計画策定に向けた検討  
⇒ 2019年度に実施した広域圏「研究会」の成果等を活用し、ワークショップ等を実施

### ◆ 気候変動適応ワーキンググループ（目的／構成員）

#### 【目的】

地域気候変動適応計画の策定に向け、適応策についての調査及び検討を行う

※ 「郡山市地球温暖化対策推進本部」における幹事会（課長級）の下部組織として設置

#### 【構成員】

- ・ A班（分野：①水環境・水資源／②自然生態系・自然災害を担当）

環境政策課、環境保全センター、防災危機管理課、政策開発課、  
河川課、都市政策課、上下水道局経営管理課

- ・ B班（分野：①農林・水産業／②産業・経済活動を担当）

農業政策課、園芸畜産振興課、林業振興課、農業委員会事務局、  
産業政策課、観光課、産業創出課、（環境政策課）

- ・ C班（分野：①健康／②国民生活を担当）

セーフコミュニティ課、保健福祉総務課、健康長寿課、保健所地域保健課、  
こども未来課、総合交通政策課、学校管理課、（環境政策課）

※ 各課の課長補佐～係長級の職員で構成

# 2020年度：計画・指針の策定（郡山市）

- 郡山市 … 「気候変動適応ワーキンググループ」による計画策定に向けた検討  
⇒ 2019年度に実施した広域圏「研究会」の成果等を活用し、ワークショップ等を実施

## ◆ 気候変動適応ワーキンググループ（スケジュール・内容）

【スケジュール・内容】 ※ 講師・ファシリテーター：国立環境研究所 福島支部 地域環境創生研究室

	日時	内容
第1回	7月3日	<講義> ・気候変動に関する背景、福島県内での気候変動 ・地域気候変動適応策の必要性について 等
第2回	7月16日	<ワークショップ> ・適応策の検討に向けた情報整理シートの確認 ・分野①におけるインパクトチェーンの確認
第3回	8月5日	<ワークショップ> ・分野①における適応策の整理・検討 ・分野②におけるインパクトチェーンの確認
第4回	8月28日	<ワークショップ> ・分野②における適応策の整理・検討 ・全庁的な取組みの可能性の検討及びまとめ



適応策の整理・検討結果を取りまとめ、「地域気候変動適応計画」を策定（2021年3月）

# 2020年度：計画・指針の策定（郡山市）

## ◆ 郡山市における地域適応計画（郡山市気候変動対策総合戦略 抜粋）

### （1）本市における影響評価・予測（庁内ワークショップで取りまとめた「情報整理シート」より）

表 2-6-1 気候変動影響の評価・予測

分野	大項目	小項目	重大性	緊急性	気候変動の影響(関連していると考えられる現象も含む)
水環境・水資源	水環境	湖沼・ダム湖	●	▲	[現在] 猪苗代湖におけるコシの問題 [将来] 猪苗代湖へ流入する河川水質への影響への懸念
		河川	●	▲	[将来] 阿武隈川における農業用水への影響への懸念 [現在] 水中のプランクトン等の光合成の活性化によるpHの上昇
	水資源	水供給(地表水)	●	▲	[将来] 降雨量が減少が予測 [現在] 国・県・流域市町村・流水利用者からなる阿武隈川上流治水情報連絡会により治水状況を共有しており、H28、H30は、水量低下による臨時幹事会を開催
		水供給(地下水)			
自然生態系	陸域生態系	富山帯・御嶽山帯	■	■	
		自然林・二次林	▲	■	
		里地・里山生態系	■	■	
		人工林	▲	■	[将来] 人工林が手入れされておらず、保水機能が十分でない、極端現象による土砂崩れの危険性が高い
	陸域生態系	野生鳥獣による影響	●	●	
	淡水生態系	湖沼	●	▲	[現在] 猪苗代湖に以前はなかった淡水魚や貝が繁殖 [将来] 三春ダム等の水質の悪化
	淡水生態系	河川	-	▲	
		生物季節			
自然災害/沿岸域	河川	洪水	●	●	[現在] 歴史的洪水災害が多発していることへの懸念
		内水	●	●	[将来] 降雨の激化が懸念され、内水による水災害の危険性が高い
	山地	土石流・地すべり等	●	●	[将来] 大雨や猛暑日等の極端現象による林道の被害
		暴風等	●	●	[将来] 暴風による送電線の切断や鉄塔の倒壊による長期間の停電が発生 [将来] 品種改良により気候等にかかわらず食味味が栽培されているが、飼料用米・加工用米について気候変動影響を受ける恐れ [将来] コメの品質低下により等級の低下
農業・林業・水産業	農業	水稲	●	▲	[将来] 施設野菜では、夏季の高湿による栽培植物と環境調節への影響 [将来] 気候変動による影響で作物の商品価値が下がり、大量廃棄への懸念 [将来] 大雨により作物が物理的に被害を受け、農作物が流出する恐れ
		野菜	▲	■	
	農業	果樹	▲	-	
	農業	麦、大豆、飼料作物等	▲	▲	
	農業	畜産	-	-	
	農業	病害虫・雑草	▲	▲	[将来] 越冬可能地域の北上によって、ナシ栽培においてカメシ等の被害が増加することへの懸念 [将来] 気候変動による害虫が増え、その捕食者も増える可能性
	農業	農業生産基盤	●	●	[将来] 山崩れは洪水の危険性への懸念 [将来] 降水量変化が、天気に依存し、灌漑施設も少ない畑作に影響しやすい [将来] 極端現象による施設設置施設被害
林業	木材生産(人工林等)		▲	-	[将来] 台風による土砂崩れ等による伐採期前の人工林への被害 [将来] 気温上昇や極端な乾燥による森林火災の大規模化や豪雨による倒木の可能性 [将来] 台風による災害リスク増大が木材調達に影響 [将来] 比較的冷涼地で育つパナの生育への影響
		特用林産物(きのこ類等)	▲	-	[現在] 一部のきのこ採取できなくなった
	その他	農林水産業従事者の健康リスク	●	▲	[現在] 農作業中の熱中症の増加 [現在] 大雨の見回りの際に用水路に転落するなどの事故が発生
その他	鳥獣害	▲	▲	[将来] 気温上昇により、標高の高い地域へ有害鳥獣の生息域が拡大 [将来] 温暖化によって高寒帯化が加速し、植物プランクトンの異常増殖等による水質悪化から、養殖に影響	
水産業	増養殖等	▲	-		

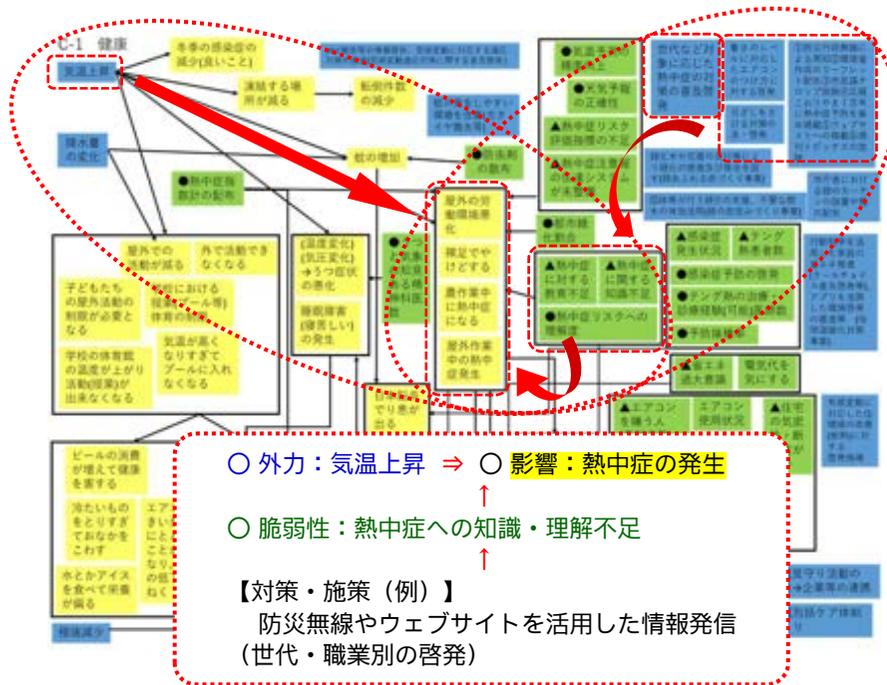
分野	大項目	小項目	重大性	緊急性	気候変動の影響(関連していると考えられる現象も含む)	
						● 高い ▲ 中程度 ■ 低い - 評価不可
産業・経済活動	製造業		▲	▲	[現在] 気象災害に伴う断水・停電により、一時的に生産設備の稼働停止、製造施設の損傷や事業活動の中断、サプライヤーの被災などサプライチェーン断絶による事業活動の中断 [将来] 気象災害による施設の損傷頻度や修復費用の増加 [将来] 気温上昇によるリスクとして、機器空調設備の電力消費量増加により、コストが増加 [将来] 気象災害に対する保険加入コストの増大	
		エネルギー需要	▲	▲	[将来] 気温上昇にともなうエアコン使用による、電力消費量の増加	
産業・経済活動	商業		▲	▲	[現在] 全国で頻発している自然災害による生産拠点の被災、交通網の断絶により短期的なサプライチェーンへの影響 [将来] 製造業と同様の影響が考えられる。洪水などによる浸水被害 [将来] 気温上昇による電力消費の増大	
		金融・保険	▲	▲	[現在] 世界的に見ても、損害保険は気象災害による被害が増大したことにより収益が悪化しており、また保険料は値上がり [将来] 金融では、気候変動による被害に関連して、長期的に見ると倒産のリスクが高くなる [将来] 熱中症や水害等による救急搬送や医療費の増加	
	レジャー	▲	▲	[将来] 高温下での屋外の観光の困難 [将来] 水質の悪化による、猪苗代湖における湖水浴の可能な期間の変化、湖水浴が困難になることへの懸念 [将来] 季節の時期の移動や、桜などの景観、自然など観光資源への影響		
	建設業	-	-			
	医療	-	-	[将来] 浸水による医療機器への影響への懸念 [将来] 気候変動に伴う新しい病気への対応		
健康	冬季の温暖化	冬季死亡率	-	-	[将来] 冬の脳血管疾患の発生率が下がる可能性 [将来] 路面凍結等に伴う転倒事故の発生数が減少する可能性	
		暑熱	●	●	[将来] 気温上昇による、熱中症になる恐れから、小中学校の授業でプールに入れなくなる恐れ	
	暑熱	熱中症		●	●	[現在] 農作業中の熱中症 [現在] 新しい生活様式で夏場のマスク着用による生活の質の低下 [現在] 2011年以降、熱中症による救急搬送件数が増え、2018年に最多を記録。2019年は2番目に多い年であった [現在] 熱中症で救急搬送された人の約半数は自宅、全体の約7割は屋内で熱中症、10代と60歳以上の高齢者が多い [将来] 救急搬送に係る経費が増大し、社会的な損失が増加 [将来] 熱中症の危険性が強い場合、行動制限が必要となる可能性がある。その結果、社会に大きな影響が生じる。 [将来] 気候変動と新型コロナウイルス(将来の新感染症含む)感染症対策「新しい生活様式」双方に適合した熱中症対策を進める必要
			水系・食源性感染症	▲	▲	
		感染症	節足動物 媒介感染症	▲	▲	
	国民生活/都市生活	都市インフラ/ライフライン等	水運、交通等	●	●	[将来] 近年、東北で日本脳炎の発生件数は確認されていないが、将来的には郡山市でも日本脳炎の発生リスクが上がる可能性 [将来] 気候変動は脆弱集団について、高齢者、小児に加え重篤な基礎疾患患者、障害者の影響が大きいと予想される
			文化・歴史などを伝える暮らし	▲	▲	[現在] 水害により路線バスやタクシー車両が水没し、公共交通機関が麻痺
その他		暑熱による生活への影響等	●	●	[将来] 気温上昇による屋外活動(夏まつり等)制限への懸念	

各分野（水環境／自然生態系／自然災害／農林／産業・経済活動／健康／国民生活）における影響等を整理

## ◆ 郡山市における地域適応計画（郡山市気候変動対策総合戦略 抜粋）

### （2）対策・施策（庁内ワークショップで取りまとめた「インパクトチェーン」を文章化）

「健康分野」におけるインパクトチェーン  
（庁内ワークショップにおける成果物）



#### ＜庁内ワークショップ（C班） 構成員＞

セーフコミュニティ課、保健福祉総務課、健康長寿課、保健所地域保健課、こども未来課、総合交通政策課、学校管理課、（環境政策課）

#### 【取り組みの柱⑥】 気候変動に適応し安心して暮らせるまち

気候変動適応計画（平成 30 年 11 月 27 日閣議決定）では、国内における様々な気候変動影響が評価・予測されています。そのうち、本市の特徴から影響が考えられる内容を整理しました。これらの影響に対応するための施策を検討・実施します。

#### ◆健康

主な気候リスク	人命損失、健康被害、生活の質低下、経済の損失
主な外力	気温上昇、降水量変化、極端現象
主な暴露	独居の高齢者の割合

#### ● 感染症

気温上昇や降水量変化によって、蚊が増加し、東北地方では罹患例がほとんどないデング熱・日本脳炎の感染者の増加による人命の損失が懸念されます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための「新しい生活様式」を踏まえ、感染症発生動向調査や予防接種を実施するとともに、現状ではデング熱・日本脳炎の感染が拡大した状況下での対処療法に留まっていることを踏まえて、蚊の発生しやすい環境を改善するための取り組みを進めます。

#### ● 暑熱（熱ストレス）

極端現象の発生に関して、東北地方では発生件数が限られている熱波の発生や気温上昇による屋外活動の制限及び屋外労働環境の悪化が懸念されるだけでなく、夏季に自宅で過ごす時間が長くなることにより、室内・就寝時における熱中症や体力の低下が引き起こされ、生活の質の低下や人命の損失につながる懸念があります。熱中症の予防に関する情報発信・啓発、都市緑化に関する取り組み、地域における見守り活動を引き続き実施していくことに加えて、気温予測・天気予報の精度向上、熱中症リスク評価指標の整備・熱中症注意報の伝達システムの整備などを進めます。特に熱中症の予防に関する情報発信・啓発については、世代や職業など市民の多様な属性ごとのきめ細かな対応に努めます。

各分野（水環境／自然生態系／自然災害／農林／産業・経済活動／健康／国民生活）における対策・施策を整理

## 2020年度：計画・指針の策定（広域圏）

- 広域圏 … 「研究会」による「広域圏における指針」策定に向けた検討  
⇒ 年度内に4回「研究会」を開催し、広域圏としての「指針」等をまとめる

### ◆ こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会（スケジュール・内容）

【スケジュール・内容】 ※ 講師・ファシリテーター：国立環境研究所 福島支部 地域環境創生研究室

	日時	内容
第1回	7月22日	<講義・個別ワーク> ・気候変動影響とその対策（2019年度振り返り） ・主要7分野における影響について 等
第2回	10月21日	<ワークショップ> ・適応策の検討に向けた情報整理シートの確認 ・分野①におけるインパクトチェーンの確認 等
第3回	11月25日	<ワークショップ> ・適応策の検討に向けた情報整理シートの確認 ・分野②におけるインパクトチェーンの確認 等
第4回	3月18日	<ワークショップ> ・前回までの（ワークショップ）結果の確認 ・各分野の「広域圏における指針」の検討



適応策の整理・検討結果を取りまとめ、「こおりやま広域圏気候変動適応策指針」を策定（2021年9月公表）

# 2020年度：計画・指針の策定（広域圏）

## ◆ こおりやま広域圏気候変動適応策指針（抜粋）

### （1）影響評価のまとめ（研究会ワークショップで取りまとめた「情報整理シート」より）

【重大性、緊急性】 ●：高い、▲：中程度、×：低い、－：評価不可

分野	大項目	小項目	重大性	緊急性	優先
水環境 ・水資源	水環境	湖沼・ダム湖	●	▲	
		河川	●	▲	
	水資源	水供給（地表水）	●	▲	●
		水供給（地下水）	▲	▲	●
		水需要	▲	▲	
自然生態系	陸域生態系	高山帯・亜高山帯	×	×	
		自然林・二次林	▲	×	
		里地・里山生態系	×	×	
		人工林	▲	×	
		野生鳥獣による影響	●	●	
	物質収支	－	－		
	淡水生態系	湖沼	●	▲	
		河川	－	▲	
		生物季節	－	－	
		分布・個体群の変動	－	－	
自然災害	河川	洪水	●	●	
		内水	●	●	
	山地	土石流・地すべり等	－	●	
	その他	暴風等	●	●	
農業 ・林業 ・水産業	農業	水稲	▲	▲	
		野菜	▲	×	
		果樹	●	▲	●
		麦、大豆、飼料作物等	▲	▲	
		畜産	－	－	
		病害虫・雑草	▲	▲	
		農業生産基盤	●	●	●

分野	大項目	小項目	重大性	緊急性	優先	
農業 ・林業 ・水産業	林業	木材生産（人工林等）	－	－		
		特用林産物（きのこ類等）	－	－		
	その他	農林水産業従事者の健康リスク	●	▲	●	
		鳥獣害	●	▲	●	
水産業	増養殖等	●	－	●		
産業 ・経済活動	製造業	製造業	▲	▲		
		エネルギー需要	▲	▲		
		商業	▲	▲		
		金融・保険	▲	▲		
	レジャー	●	▲	●		
	建設業	－	－			
	医療	－	－			
	その他（海外影響）	▲	×			
	健康	冬季の温暖化	冬季死亡率	▲	▲	
		暑熱	死亡リスク	●	●	●
熱中症			●	●	●	
感染症		水系・食品媒性感染症	－	－		
		節足動物媒介感染症	●	▲		
	その他の感染症	－	－			
国民生活 ・都市生活	都市インフラ・ライフライン等	水道、交通等	●	●		
		文化・歴史などを感じる暮らし	▲	▲		
	その他	生物季節、伝統行事・地場産業等	▲	▲		
		暑熱による生活への影響	●	●		

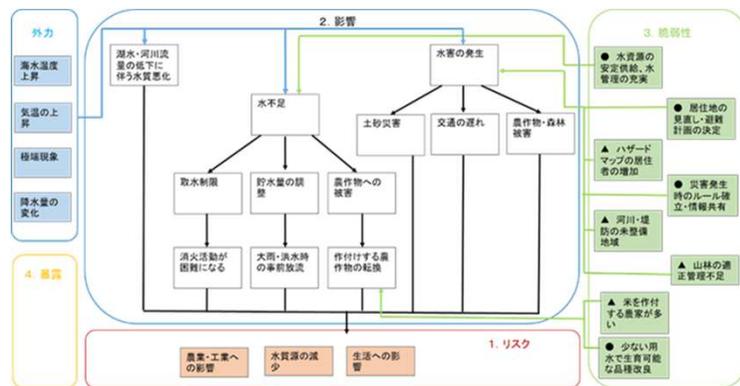
（「優先」は、ワークショップに参加者が優先的に取り組むべきと合議した結果）

各分野（水環境／自然生態系／自然災害／農林／産業・経済活動／健康／国民生活）における影響等を整理

# 2020年度：計画・指針の策定（広域圏）

## ◆ こおりやま広域圏気候変動適応策指針（抜粋）

### （2）分野別に取りまとめた「インパクトチェーン」と適応策の方向性・施策例（「水環境・水資源」抜粋）



影響評価まとめ（抜粋）

分野	大項目	小項目	重大性	緊急性	優先
水環境・水資源	水環境	湖沼・ダム湖	●	▲	
		河川	●	▲	
	水資源	水供給（地表水）	●	▲	●
		水供給（地下水）	▲	▲	●
		水需要	▲	▲	

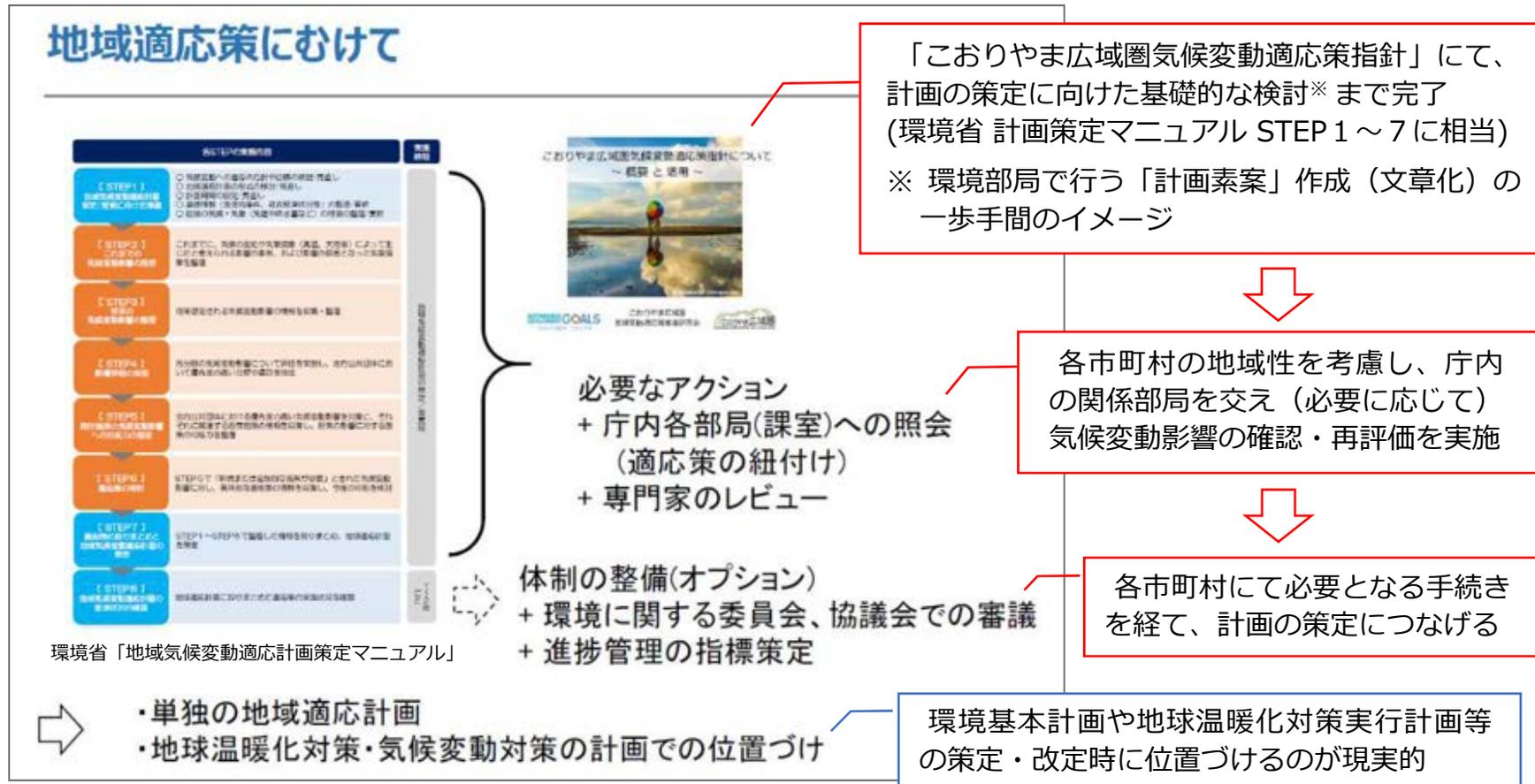
適応策の性質と方向性	主な施策例（広域圏市町村における関連施策より抜粋）
【普及啓発】普及啓発の推進等	「水資源の啓発」「河川の清掃活動」「魚類資源の維持と環境保全の推進」等
【調査・研究】研究制度等の拡充等	「（関係機関と連携した）適応策についての調査・研究」等
【リスク把握】山林におけるハザードマップの整備	「土砂災害ハザードマップの作成」「森林整備」等
【生活様式】食生活変化への対応	
【予防・補償】多種多様な作付け、農業被害の補償等	
【避難・復旧計画】避難施設の確保、避難方法の周知等	
【計画・管理】水資源管理の推進、山林の適正管理等	「河川・湖の環境保全」「水辺環境の保全」「森林環境の保全」等
【ソフト対策】堤防の整備、遊水・調整池の整備	「河川改修の推進」「治山・治水事業の推進」「農業用施設整備」等
【計画・管理】ダム運用の見直し、浚渫	「河川環境の整備・保全」等
【インフラ整備】治水対策の根本的見直し、水源地の増加等	「浸水被害の軽減」「治山・治水事業の推進」「農業用施設整備」等
【産業振興・創生】林業の後継者対策	「自然や緑の保全」「森林の適切な管理」「森林環境の保全」等
【広域・マルチセクター連携】水資源管理の広域的連携体制の構築等	「阿武隈川サミット事業への協賛」「猪苗代湖子ども交流会の開催」等

各分野（水環境／自然生態系／自然災害／農林／産業・経済活動／健康／国民生活）の対策の方向性・施策例を整理

# 2020年度：計画・指針の策定（広域圏）

## ○ 「こおりやま広域圏気候変動適応策指針」の活用

⇒ 各市町村における（地域性を考慮した）「地域気候変動適応計画」の策定と適応策の推進



出典：国立環境研究所 気候変動適応センター 主席研究員 大場氏「R3研究会 説明資料」

本指針を活用し、各市町村における「地域気候変動適応計画」策定 及び 広域連携による適応策の推進につなげる

◆ 国立環境研究所 福島拠点 及び 気候変動適応センターからご支援を賜り、  
郡山市における地域適応計画 及び 広域圏における適応策指針を策定

➤ 郡山市

- 「郡山市地球温暖化対策推進本部」における幹事会（課長級）の下部組織として、  
「気候変動適応ワーキンググループ」を設置（2020年7月～）

⇒ 適応策についての調査・検討を実施し、2021年3月に「地域気候変動適応計画」  
を含む「郡山市気候変動対策総合戦略」を策定

➤ こおりやま広域圏

- 「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」を設置（2019年5月～）

⇒ 郡山市における検討内容を活用・共有し、「こおりやま広域圏気候変動策指針」  
を策定（2021年9月公表）

## 2021年度～:現在の活動（広域圏）

### ◆こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会の機能強化

- 適応策と併せ、緩和策の取り組みを推進するため、名称を変更

⇒ こおりやま広域圏気候変動対策推進研究会（2021年度～）

会員	こおりやま広域圏自治体（17市町村）
アドバイザー	国立環境研究所 福島地方気象台 福島県地球温暖化防止活動推進センター（うつくしまNPOネットワーク）
オブザーバー	東北地方環境事務所／福島県環境共生課／県中地方振興局 郡山商工会議所／郡山地区商工会広域協議会 その他、こおりやま広域圏内の関係団体 等

### ➤ 活動内容

- 気候変動対策（適応策と緩和策）を具体的に進める上で、実施可能な気候変動対策のありかたについて理解を深めるためのワークショップや講演会を実施。
  - 2021年度：国内の気候変動対策について聴講（年4回開催）
  - 2022年度：気候変動対策を進めるための推進体制について議論（年3回開催）
  - 2023年度：海外の広域的気候変動対策を参考に、実施可能性について議論（年3回開催）

## ◆健康分野の適応策として、クーリングシェルターを開設（2023年度）

### 制度について

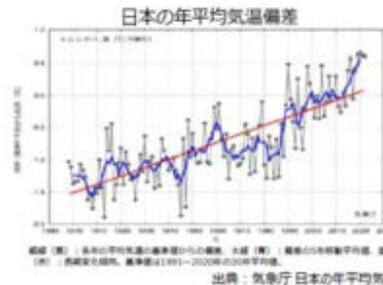
#### ◆ 背景 気候変動適応法の改正

- 熱中症による**死亡者数が増加傾向**。  
1,000人を超える年も。
- 地球温暖化が進めば、**極端な高温発生のリスク増加**が見込まれ、より熱中症対策が必要。

自然災害及び熱中症による死者数

	自然災害	熱中症
2017年	129人	635人
2018年	444人	1,581人
2019年	155人	1,224人
2020年	119人	1,528人
2021年	106人	755人

出典：令和4年防災白書及び人口動態統計



#### 《法改正（2024年度予定）による対策強化》

- 熱中症警戒アラートを法制化**⇒「熱中症警戒情報」さらに一段上⇒「**熱中症特別警戒情報**」
- 市町村が要件を満たす施設を「**指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）**」に指定。

### こおりやまクーリングシェルター

熱中症対策を推進するため、改正気候変動適応法の施行（2024年度予定）に先行し、暑熱避難施設（クーリングシェルター）として市公共施設を広く市民に開放。

#### ◆ 対象施設

- 市役所庁舎（本庁舎、西庁舎）
- 市民ふれあいプラザ（ビッグアイ6階）
- ミュージカルがくと館
- 郡山市福祉センター、郡山市中央老人福祉センター
- 公民館（中央、地区・地域、ふれあいセンター 等）
- 図書館（中央、希望ヶ丘、安積、富久山）

全50か所

#### ◆ 期間

2023年6月15日から9月30日まで

#### ◆ 開放時間

各施設の開館時間中

#### ◆ その他

プラスチックごみ削減のため、マイボトル持参を促す



国の基準（法的位置づけ、指定要件、開設要件等）を踏まえ、2024年度から本格稼働予定

ご清聴ありがとうございました。



郡山市イメージキャラクター がくとくんの妹  
がくとくん おんぷちゃん

郡山市環境政策課  
TEL 024-924-2731  
FAX 024-935-6790  
E-mail [kankyouseisaku@city.koriyama.lg.jp](mailto:kankyouseisaku@city.koriyama.lg.jp)